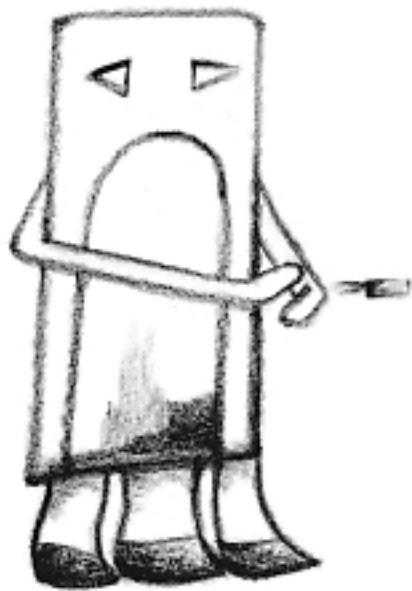


たたかえ! ヒガシヤマン

round 25



©大畠栄里



すずりくん

【必殺技】墨配布16連射

古き良き日本の心を改めて見つめてもらうため、地道に墨配布活動をしています。筆を笑うものに出会うと攻撃にかわり怒りに相じて最大16連射にまでなります。足の墨がなくなると、自ら墨をすって補給します。

【考案者】TOMO村

花屋でアルバイトをしています。趣味で鉛筆を使って風景画や花鳥の絵をかいています。筆も鉛筆もそうですが、かいている間にすりへって(墨へって)表情が変わるところが気に入っています。

ヒガシヤマンの返し技

【必殺!! 一休さん!!】

春だ。留年した。また年下のヒーローたちと始業式を迎えるねばならない。なぜだ。年に4回もあるやる敵と闘っている私の功績が評価されないというのか。単位が足りなかったとはいえ、教授の研究室まで土下座しに行った私の努力を何だと思っているのだろう。あの教授め、やら墨を使えと言って私の答案にケチをつけてくる。トンチをきかせて答案用紙のすみっこだけを使ったがダメだった。くそ、あいつはどう見たってぬりかべにしか見えないのに…

—2010年4月1日のヒガシヤマンの日記より—

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は闘う! 「今年こそ卒業できるのかって?…あわてないあわてない。一休み一休み」 ヒガシヤマンの一休みはいつまで続くのか。今年度もがんばろう、ヒガシヤマン!

文: 筒井加寿子

ヒガシ ガシ

VOL.
25 ガシ

2010 SPRING



- 01**・たたかえ！ヒガシヤマン
- 02**・もくじ
- 03**・東山schedule
- 05**・【特集】東山再発見
- 08**・東山 あやし、をかし。
- 09**・ステージサポートプラン
- 10**・自由に似顔絵
- 11**・ワークショップななめ読み
- 12**・ヒガシヤマQ&A
- 13**・Higashiyama Youth

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、
東山の情報もかじってほしい。
ヒガシ（干菓子）のイメージからくる季節感や彩りも
添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。



イラスト

藤本浩史【the coopeez】
the coopeez HP

<http://www.geocities.jp/coopeez/>

東山schedule 2010



① 工作室開放「ヒガシヤマ D E ものづくり」

創造工作室を使って、いろいろなものづくりができる空間を提供しています。電動ろくろ、電動糸のこ、ミシン、アイロンなど必要な道具が揃っています。広いスペースなので、大きな机やイス等の大きなものを木材で作ったり、みんなでわいわいしゃべりながら手芸したり、活用方法は使う人次第！！

アドバイススタッフのいる日を設けたり、陶芸については土の量り売りや釉薬かけができる環境、創作の際に必要な道具の貸し出しなどのサポートを行っています。様々なものづくりの場として気軽にご利用ください。

日 時：毎週木曜日18:00～21:00と毎週土曜日14:00～18:00
＊木曜日が祝日の場合は開催していません。

参加対象：京都市に在住、通学、通勤先がある中学生から30歳までの方

定 員：なし

参加費：無料
(材料は一部有料にて提供)

申込み受付：不要



② 表現活動へのお誘い2009発表会

知的な障がいのある青少年の余暇活動の充実を目的として実施している「表現活動へのお誘い～からだではなそう～(自由な表現を楽しみながら、からだを使ったコミュニケーションを探り合うプログラム)」の2009年度の活動発表会をセンターロビーにて行います。期間中、ロビーにて写真や映像にて活動風景を自由にご覧いただけます。ぜひ、足をお運びください。

会 期：4月25日(日)～5月25日(火) センター開館時間内

会 場：京都市東山青少年活動センター

③ 演劇ビギナーズユニット2010参加者募集

わたしも知らなかつたわたしに出会う

演劇ビギナーズユニットは、演劇初心者のための講座です。
参加した皆さんで、一つの舞台を創りあげます。

演劇に興味はあつたけどこれまで舞台に立つ機会がなかつた、
という方や、何か新しいことを始めたい、普段の生活にちょっと物足りなさを感じている方へ。

表現の魅力、創る楽しさ、本格的な舞台に立つという貴重な
体験ができる、ここに、新しいステージがあります。

わたしの好きなわたし、わたしの嫌いなわたし、
わたしも知らなかつたわたしにも出会えます。

少しだけ勇気を出して、一步踏み出すきっかけにしてください。
たくさんの応募をお待ちしています。

講座日程:6月14日(月)~9月27日(月)全37回

毎週月・木曜日18:00~21:00

*祝日は15:00~18:00、9月14日(火)18:00~21:00

(講座日程以外に自主練習をする可能性があります)

*説明会／6月7日(月)19:00~20:30

*公演日／9月18日(土)・19日(日)・20日(月)

*公演準備日／9月17日(金)

募集期間:4月8日(木)~5月31日(月)

参加対象:京都市に在住か在学・在勤の中学生から30歳まで
の方で、演劇初心者の方、またはそれに準ずると
思われる方。

募集定員:17名(応募多数の場合は抽選、定員に満たなかつた場合は、5月31日以降も先着順で受け付けます)

参加費:30,000円(全37回の講座費用・公演費用一切込)

演出:山崎彬(悪い芝居／作家、演出家、俳優)

申込み:京都市東山青少年活動センターへ直接来館、
または電話・E-mailにて受け付けます。

公演会場:京都市東山青少年活動センター創造活動室

共催:NPO法人京都舞台芸術協会



④ 中劇研「春の合同公演」

中劇研(京都市中学校教育研究会演劇部会)は、
京都市内の公立・私立中学校演劇部の集まり。
参加校11校が日頃の活動の成果を発表します。
この催しは、「学校と青少年施設の連携」事業
として、創活番(青少年ボランティア)の協力で
実施します。

日 時:6月12日(土)・13日(日)入場無料

場 所:京都市東山青少年活動センター
創造活動室

【①③の事業について】

対象:京都市に在住もしくは在学・在勤
されている13歳から30歳までの方

【②④の事業について】

対象:市民

【③の事業について】

受付日より 直接来館、または電話・E-mailにて
先着順受付。

いずれの事業も会場・問合せは京都市東山
青少年活動センターです。TEL 075-541-0619

東山フェスタ2010企画ボランティア募集中!!

今年も7月24日~9月30日にかけて、東山フェスタ
を開催します。

現在、全体的なプログラム構成などを一緒に考え
ていただけるボランティアスタッフを募集してい
ます。企画をしてみたい!何かやってみたい!と
いう方はぜひご連絡ください。(5月9日〆切)
初めての方でも大丈夫です。

対象:京都市に在住・在学・在勤されている
13歳から30歳までの方

東山再発見

特集

一見紙でできた工作の箱。

その覗き穴から広がる世界は…？！

アナログなのにハイテク！？

何度も覗きたくなる…なんだかワクワクしてしまう、そんな世界を創る岡田翔さんの世界を覗き見してみました！

作家
岡田翔さん



——どのような作品を作っているんですか？

岡田 16～17世紀からある映像機器というか、今でいうおもちゃみたいなものです。穴があいている木のフレームに、描いた絵を並べて、その穴を覗いて絵画の3Dを見るというような感じです。それを私は絵画を写真に置き換えて作り換えているといったところです。

●——例えば、家から山までの距離と山と空の間の距離って、実際には違うと思いますけど、そんなことも計算しながら作っているんですか？

岡田 そうですね、こういうトリミングの仕方をしたら面白いかなというように、実際の空間を見ながら自分で編集していく感じですね。100メートルあったとしたら、10メートル、50メートル、70メートルの場所が良いなとか、より面白く見える点を探しながら作っています。昔の映像機器を研究されている方からお話を聞いたところによると、こういった作品は16世紀くらいからあって、現物として残っているのは、19～20世紀後半のものらしいです。探してもなかなか見つからなくて、紙媒体で残っているかもしれないということで、いろんな国の本屋さんに行くんですけど、どこにもなくて、1回も实物を見たことがないです。もともとは「ピープ・ショー」というもので「覗き見」という意味ですけど、ネットなどで調べても、なかなか出てこないんです。

●——19世紀にもあったんですね。

岡田 はい。木の箱の中にレイヤーを入れてあるか、蛇腹のようにビヨーンと伸びて中に入っているか、というような形だと思います。持ち運びが楽なので、そういう形にして持ってくる予定でした。最初というか今もですが、資料がなくて、全体の見取り図と、覗いたらこ

ういう風になるよというんですね。やっぱり、作りながら試行錯誤しています。

●—具体的にはどのような作品がありますか？

岡田 4月に太秦の大映通りで、子どもたちと一緒にワークショップ形式で作品作りをします。子どもたちと「こんな所だよ」というように、通りを一緒に歩いて、そして縮小した自分たちを、作品として作った通りの中に入れ込もうかなと。大映通りさんの町おこしというか、商店街の方々と互いに高め合えるような関係で形にしていければと思っています。知り合いのアートディレクターさんがいて、チャレンジ体験のNPO活動をされているんですけど、その小学校低学年くらいの子どもたちの課外活動という形で、一緒に組んでやってもらっています。

●—大人も参加できます？

岡田 大丈夫だと思います。子どもも大人の方も楽しめる様なワークショップにしたいです。大映通りって、昔から映画などで栄えてたところなので、そういう昔の商店街の写真と、今の商店街の写真を使って混ぜ合わせたりもできたら楽しいかなあと。

●—興味をもたれたきっかけというのは？

岡田 昔からあるもの、江戸の技巧とか工芸・民藝とかいったものがもともと好きで、作品を知ったのは大学に来てからです。大阪の大学でこういったものの復元をされている方がいて、たくさんのヒントをいただきました。そんなことを考えながら図書館で探し物をしていたらまた昔の映像機器を扱っている本があって、そこでこういった作品について知って、面白そうだなと。自分は絵が特別うまくないので、「じゃあ、写真でいこう」ということになりました。

●—初めて形にしたのはいくらいですか？

岡田 去年の11月くらいですね。今も試行錯誤中です。作り方も、もうちょっとうまくできないかなとか、見せ方についても、ディスプレイを工夫したりいろいろ工夫してみようかなと考えています。

●—「覗く」って、なんだかウキウキしますね。写真の数というのは決まっているんですか？

岡田 決まってないです。実際の距離やバスなんかも、このくらいでいいかなという感じで、写真や实物にものすごく逆らってます。写真を撮って編集するので1週間くらいかかるって、それを組み合わせてっていう作業は、スキル的な問題もありますけど、もっとも時間がかかりますね。覗く場所を間違えると全然見えなくなるし、実際に作ってみなきゃ分からなって感じですね。

●—すごい枚数の写真が使われているってことですね。

岡田 この作品だと編集も含めて、70~80枚くらいです。

●—この作品は何作目なんですか？

岡田 作りかけのものを入れたら、7、8個くらいですね。

●—けっこう大きいですね。

岡田 展示で製作した作品はA1サイズのポスター2枚分ありました。もともとこういう立体をやっていたので、立体は大きければ大きいほど見栄えがするんですけど、そのノリで作っていったらこれは違うぞ、ってことになってしまい大変でした…。



●—しっかりしたお手本がないものを作るというのは、大変だと思うし、ちょっとワクワクする感じもありますね。

岡田 見つける楽しみみたいなものがありますね。この作業についても、この間の展示では発想を評価していただいたので、今度は質をあげて、でもチープさというか、手作り感は残したいんですよ。トリミングの粗さとか写真の合成に関してだと、全然ダメなところもあると思います。だけど、そのチープさの中でも作品が見えてしまうというか、腑に落ちてしまうみたいなどころが面白いなと。そこに可能性を感じています。

●—まさかみたいな感じがありますもんね。普段は商店街ですけど、これから撮っていきたい場所はありますか？

岡田 ひとまず、道みたいなことはやっていきたいです。この商店街を選んだのも、いつもは人気がなくて、昔の方が活気があったというお話をよく聞くんですけど、実際見てみると、お店の中でもけっこう人がいるという印象が強かったので。だったら、商店街を取りあげたら面白いかなと。あと、実家が栃木の宇都宮で、日光街道の横なんですよ。五街道でにぎわっているというか、杉の木や桜の木や紅葉もあって、四季によってそれぞれ違った表情があるんです。そのまますぐに通った道が印象に残っていて、だから道というものが



気にとまつたんだろうなと思います。商店街以外では、そういう地元の道路というか、四季があるところを作りたいですね。

●—商店街の活性化にもつながるっていうのが、未来が明るい感じがしますね。

岡田 商店街の人や、知らない人が見ても面白がってもらえばいいなと。住んでいるところが形になって、そこに住んでいる人が見ているっていうのも。地産地消みたいな感じで、その場で作ってその場で消費して、あわよくば、来てもらった人にも楽しんでもらえるような形で。そうすれば、廻っていくのではないかなど。

●—道行く人が、年齢層関係なく関わっていける感じですよね。

岡田 この道を通っている人だと、何月くらいの写真ってわかるんですよね。やっぱり、その場所に住んでいたら、その場所の人の見方もあるし、作品として見てもらってもいいし、いろんな楽しみ方があると思います。

●—どんな風になるのか、全然想像つかないですね。

岡田 いろいろやってみると、道なり風景なり、しつくりくると思うんです。この商店街を通ったことがなくても、頭の中に商店街ってイメージがあるじゃないですか、多分それとリンクするので。どこか頭の中にあるイメージと、この不格好な3Dがリンクして、なんか納得してしまうのかもしれません。

●—アートであり、科学でありって感じですね。

岡田 やっていくと、こんな風になるはずじゃっていうくらい難しくなってしまって、すごくびっくりしています。でも、気分は小学校の図工の時間の延長線上です。

●—活動場所は家ですか？

岡田 そうですね。今度、3回生からゼミが始まるんですけど、おもちゃについて研究するというゼミで、そこでもやろうかなと思っています。

●――どうなっていくのか、ますます楽しみですね。

今後チャレンジしていきたいことはありますか？

岡田 商店街の方とコミュニケーションをとりながら、やっていきたいなと。そうすれば、何か見えてくると思うので。4月のワークショップをしっかり行えるようにして。あと、キットのように作ってもらう形と、もうひとつは、ディスプレイを使った形での展示方法を新たに作ろうかなと。是非、興味のある方は声を掛けていただきたいですね。

●――大きい作品とかは？

岡田 A3の大きさくらいでやってみようかなと。手持ちできる大きさの方が、ちょうど見やすかったりするので。これからも試行錯誤の毎日です。

●――本日は貴重なお時間いただき、ありがとうございました。

岡田翔さんHP

<http://kakeruokada.com>



取材：夏原 理恵

編集：松崎 美里（京都橘大学文化政策学部4回生）



東山 あやし、をかし。 ～ぶらぶら歩いてみつけた風景～

しだれ桜、春爛漫、花見らんらん
産寧坂のしだれ桜ですー

●夏原 理恵

ヒガシガシの編集ボランティアが、
東山地域で見つけた風景をお届けします！



STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、色々な人たちに東山にある創造活動室を利用して欲しい。だから次のようなグループの公演を応援しようと思いました。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは→東山青少年活動センターへ

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも
ご覗けます

応募
方法

*応募には まず、担当者にご相談ください。

*企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)

..... 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで

*個別面談 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)

*決定 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)

HIGASHIYAMA STAGE SUPPORT PLAN YU'Z

東山青少年活動センターでは、発表や公演等を控えているグループを対象に創造活動室を中心とした、センターの空間を練習場所として利用していただけるプランを実施します。

- 3ヶ月先までの部屋(最大24時間)が予約できます。
- 創造活動室(175m²のオープンスペース)をはじめとした、いくつかの空間が練習場所として使えます。
(一部利用できない空間があります。)
- 施設使用料は無料です。
- ▼対象は、京都市に在住もしくは、通学・通勤している、概ね13~30歳のメンバーを中心であること。
- ▼発表や公演の日時・場所が決定しているグループ。
*演劇・ダンス・映像など創造表現活動の発表・公演であればジャンルは問いません。

申込・問合せ 京都市東山青少年活動センター

TEL 075-541-0619 E-mail higashiyama@ys-kyoto.org

申込みの方法は?

募集の要領は、次のようにになります。

公演・発表が決まった!

まず、担当者にご相談ください。

応募

決定

予約

申請書の内容

※センター指定の用紙に記入していただきます。

- 代表者の氏名、連絡先
- 公演日、公演場所など
- 団体、ユニットの簡単なプロフィール
- 今回の公演や発表で実現したいことなど
- 利用希望日

自由に似顔絵

アートゴコロはないものの、ついついペンを持って描いてしまう。

こんな感じ？ それともこんな感じかな？ って探りつつできあがる感じが妙に楽しいことってありませんか。

このコーナーでは、架空の名前をお題にして自由に似顔絵を描いてもらった中から、いくつかの作品を紹介していきます。

今回のお題は「チェルシー木村」



次回のお題は東山青少年活動センターへお問合せください。(次回募集の〆切は5月末)

センターロビーでも描いていただけます。らくがき気分でぜひご参加ください。

「ヒガシガシ」デザイン・編集 ポランティアスタッフ募集！

この情報誌と一緒に創りませんか？ 東山青少年活動センターが季刊紙として発行しているフリーペーパーです。

毎号2,000部発行しており、京都の大学や市内7ヶ所の青少年活動センター、カフェ、ギャラリーなどに設置し、若者への情報発信を行っています。

活動内容 活動日は内容によって変わります。直接お問合せください。

◎特集やHigashiyama Youthの取材・原稿作成 ◎全ページのデザイン・校正作業

◎製本・発送作業など

何か新しいことを始めてみたいと思っている方、イラストを描くのが好きな方、地域に出てものづくりの活動をされている方と出会いたい方、編集・デザインに興味のある方…経験はなくても大丈夫です。

やってみたいと思ったらぜひ東山青少年活動センターまでお問合せください。TEL 075-541-0619

E-mail higashiyama@ys-kyoto.org (10)

work shop

読む
人

●概要

△ 東山アートスペースイベント 「メモリーDOTS！」

東山アートスペースの作品展示「HAPPY DOTS！」と同時開催のアートイベントを中京青少年活動センターで行いました。部屋いっぱいに大きな白布を広げ、その上にみんなの「思い出の場所」「理想の場所」を様々な素材を使ってつくりました。参加者が部屋に入つてまず手にするのは素焼きの人形。顔を描きこむ人や服を着せる人も続出。そこからイメージが膨らみ…。島ができたり、空を飛ぶものもできました。マップの上でたくさんの人が出合えた素敵なおイベントでした。

〔開催日時〕2010年3月20日(土)～22日(日)

〔参加者〕市民約100人
(小さなお子さんから年配の方まで)

〔参加費〕無料

〔運営〕東山アートスペースボランティア



運営スタッフより

●イベントを動かす役割を担つて、正直準備は大変でしたが、当日が近づくにつれてイベントが楽しみに思えました。当日、過去未来を1枚の地図にするというコンセプトのもと、たくさんの方のアイディアで想像力あふれる作品として仕上がりました！

また来年もイベントしたいな♪

●自然と自分も笑顔になっていました。作品を仕上げた子供の二カヘッテ笑顔で！ペットボトルのキャップを風船にして、そこに人形が繋がれて空を飛んでいたり、アートだから普段出来ないことが簡単に出来る！ってことを強く感じるイベントでした。アートの面白いところですね！これからも笑える毎日をアートしよう！



新しい環境が始まる春。誰もが期待に胸を膨らませる季節です。
しかしGWを過ぎると、なんかやる気がでなかったりしませんか？
そう、5月病！今回は、みなさんにその症状と対策を聞いてみました。
参考になるでしょうか？

ヒガシヤマ Q&A

症状：無気力、家の外に出たくない。
対策：家飲み（屋から！）
31歳 男性 社会人

症状：むしろ夏に向けて体がうずくぜ！
対策：なわとび
25歳 男性 社会人

症状：だるーい。ねむーい。
対策：もう一日安んで、
プラチナウィークにする☆
35歳 女性 社会人

症状：朝、起きれない。
1日中起っていたい＆2度寝がしたい気分。
寝ても寝ても寝足りない！！
対策：激辛なもの（カレー、わさび等）を食べて、
頭をすっきりさせる
25歳 女性 社会人

症状：誰とも話をしたくなくなる。
対策：1人でカラオケに！！大熱唱します。
20歳 男性 大学生

症状：やる気がなくなる。
対策：とりあえず働く。
16歳 女性 高校生

症状：何に対しても興味がわかなくなる。
対策：大好きな買い物！いくらお金がなくても
ぎりぎりで買い物。
21歳 女性 大学生

症状：うつ病もどきになる。
対策：自分自身を深くみつめる時だと理解し、
この機会に深く様々なことについて思考する。
17歳 女性 高校生

症状：ねむーい。だるーい ((^□^))
対策：五月自体なくしてみる☆
17歳 女性 高校生

症状：やる気が出ない。
対策：バチンコを打ちに・・・
22歳 男性 社会人

症状：アバターを見たくなる。
対策：見る。
17歳 女性 高校生

症状：学校に行きたくなくなる。
対策：特に対策はないです。
時間とともに治ってます。
19歳 男性 大学生

症状：やる気が出ない。
対策：ゲームを一晩中やる！
20歳 男性 大学生

症状：涙もろくなる。
対策：とりあえず、泣く！
感動DVDやら漫画やら
涙が枯れるまで泣き明かす。
21歳 女性 大学生

症状：無心になって動けない。
対策：その日の計画を前日にたてておく。
あと、楽しいことを見つける。
(ワクワクしてしまうから)
12歳 女性 中学生

症状：ボーとしている。
対策：とりあえず運動場2周ダッシュ。
12歳 女性 中学生

症状：誰とも話をしたくなくなる。
対策：1人でカラオケに！！大熱唱します。
20歳 男性 大学生

症状：イライラしてしまう。
対策：大好きな甘いものをいっぱい食べる！
5月病になると太ります。
20歳 女性 大学生

症状：朝起されなくなる。
対策：実家の母に電話。懇意をきいてもらう。
または実家に帰る。
19歳 男性 大学生

症状：すごくねむい。
対策：1日中ねる。
12歳 女性 中学生

症状：夜眠れなくなる。
対策：夜のドライブ！びわ湖の周りを
好きな音楽を聴きながら。
20歳 女性 大学生

症状：家から出たくない／(^○^)＼
掃除、料理面倒くさーい／(^○^)＼
対策：思いきって掃除する（耐えきれなくなったら）、
料理する（食材のために外出することに繋がる）
19歳 女性 大学生

Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回お話を伺ったのは、合唱団「くろっしえ」の奥田覚さん、西村拓哉さん、三村智彦さん、谷田名都文さんです。

元々は京都大学の合唱団。今は様々な大学から集まつた9人(男性4人、女性5人)で活動しています。4月から社会人になるメンバーもいます。

一活動内容を教えてください。

合唱をメインに活動をしています。でも、合唱にこだわらずにアカペラのような作品でも良いし、演劇とかもっと色んな演出もできたら良いなって思っています。まだ具体的にどんな活動をこれからしていくかは決まっていなくて、合唱を中心に創作活動出来たら良いなってのが最初のモチベーションです。

一チーム名の由来を教えて下さい。

『くろっしえ』の日本語訳は「編み物」なんですが、「編み物」ってつけた由来は、一本一本の糸が編み合はさつた一枚の編み物のように、合唱もひとりひとりの個性みたいな糸がそれぞれ繋い合わさることで、メンバー全員がお互いをそれぞれ支えあい、繋がりあうこと

で何か一つ新しいものを創れるというような発想からつけました。あと、一本一本の皆が寄り集まることで、何か柔らかいイメージがすごくなるなあって。編み物って柔らかくって、色んな糸があって、でも個個性がちゃんと出て、一体感があるように見えるのがよくて、『くろっしえ』ってつけました。



一なぜ、チーム名は平仮名なんですか？

西村：平仮名の方が柔らかいイメージがあるんです。

『くろっしえ』ってアルファベットで書いたら堅い。

西村：イメージ的にはクレヨン。クレヨンで真っ白い画用紙に『くろっしえ』って書いたら丁度良いような雰囲気ですね。

一練習場所のメインにおいている場所はどこですか？

西村：東山青少年活動センターです。

奥田：もともとは京都大学で練習してたんですけど、京都女子大学の人は移動が大変で、ここが一番立地的に便利だし、環境も整ってるの利用しています。

一どんな歌を練習しているんですか？

奥田：有名なのだと、大きな古時計とか、アーティンググレースとかです。

谷田：トトロも歌ってますよ。となりのトトロがアカペラ用に編曲されたものがあるんです。

奥田：あ、カントリーロードも歌ってますよ。

一何パートあるんですか？

奥田：基本4パートで、各パートで分かれたりするんです。で、次の本番に予定が合いつなぎるのは8人です。

『くろっしえ』は、次が初舞台なんです。

一『くろっしえ』の魅力とは何ですか？

奥田：京都大学の合唱団に所属していた時は団員が最高100人くらいいたんです。これだけ人数がいると、1人くらい練習で欠けてもあんまり負担じゃないです。でも僕らの場合、8人8パートになつたら1人いないと、パートが1つがないってことになります。だから改めてその大事さがわかつてきました。実際にみんな大学の上級生になってきたんでスケジュール合わせるのも難しくなってきたりします。でも、楽しみつつ、ちゃんと集まりつつ、他と両立していくにはどうしたら良いか考えながらやっていきたいです。

谷田：現実逃避の場としては最適だと思います。

三村：現実逃避というかストレス発散には良いですね。



—指揮者は決まっているのですか？

奥田：決まってないです。指揮なしなんです。

西村：8人、9人だからむしろ全員でつくろうと。

奥田：指揮者が1人いたら、その人に頼っちゃうかもしれないじゃないですか。そうなりたくないなあつと。

西村：本当に作っても限界というか。

奥田：何か、皆で均等でなくても良いんだけど、ひとりひとり好き嫌いがあるし、得意不得意があるし、そんなんをお互い言いあいながらやった方が多分楽しいと思うんですよ。それをうまく全員が引き出せるように。なかなかうまくいかないんですけどね。そういうのを目指したいんで指揮者はいないです。

—指揮者なしでできるものなのですか？

奥田：はい。みんなの呼吸が合えば。

谷田：指揮者がいると、みんな指揮者だけを見るんですよ。でも、指揮者がいなければひとりひとりが、全員を最終的には見れるようになるっていう。

—初舞台はどこですか？

奥田：初舞台は京都府庁日本館春の一般公開（観桜会）のイベントです。

—何曲歌うのですか？

奥田：8曲くらいです。メインの曲4曲は決まって、あとは、まだちょっと決まってないんです。もともと昔から歌ってる曲とかも持ってきてたりできるし、簡単な曲ならすぐ歌えるし、どうやって雰囲気作ろうか最近は考えています。

—これから『くろっしえ』の目標を教えてください。

谷田：形にとらわれずに楽しくやっていきたいですね。

奥田：それをするために、何か最低限の形が欲しいです。今はまだ形ができていない状況なんで。

三村：いつもの練習をする基本的なシステムとか、いろんな人の思う団体像、団体としての形ができれば。

奥田：決まってから初めて逆に自由になれるかなって感じかな。メンバー全員が自然に好きにできるような団体にしたい。無理せず、練習に来たらモチベーションも上がるし、他とも両立できるし、楽しいっていう雰囲気作りをしたいです。

一本日は貴重なお時間を割いていただき、ありがとうございました。



取材：松崎 美里 編集：牛山 瑞穂
(京都橘大学文化政策学部4回生)

